

第2期 瀬谷区地域福祉保健計画 第2回策定委員会 議事録

平成22年6月4日(金)

午前10時～午前12時15分

区役所1階会議室

● 出席者

- ・策定委員メンバー 15名
名和田委員長 網代副委員長 諸橋委員 水野委員 早坂委員 岸本委員 河野委員
清水委員 堀川委員 北井委員 永嶋委員 上原委員 大貫委員 中野委員 本田委員
(欠席:田村副委員長 小澤委員 米倉委員)
- ・オブザーバー 福祉保健センター長 石原
- ・事務局 8名
- ・コンサル(記録) 1名

1. 開会あいさつ

福祉保健課長

- 前回欠席された 区食生活等改善推進員の堀川委員を紹介。
- 第1回の委員会 4月23日以降、5月6日に全域計画の両輪となる地区別計画の推進懇談会を開き、全域計画と地区別計画の両方の計画作りがスタートした。
- 5月の間に、区の連合町内会、民生児童委員、地区社協、保健活動推進員の会長会において、第2期の地域福祉保健計画の体制、考え方やスケジュールについて事務局の方から説明を行い、新しい計画づくりの幅広い周知と協力をお願いした。
- 並行して、支援チームである区役所、区社協、ケアプラザの職員の研修や内部の調整会議を開き、準備段階から本番、実践の段階に入ってきた状況。
- 本日は、前回の宿題の説明の後、課題のテーマとなる「見守り」「支えあい」について活発な意見交換をお願いしたい。

委員長

- 本日の第2回委員会では見守り、支えあいというテーマで総括的に全域レベルの話をしたいので、皆様、活発なご議論をお願いしたい。
- 行政・区社協・地域ケアプラザの専門機関でも周知と研修を行っていただき、地域で活動されている様々な団体にも周知されているとのこと、大変心強く思っている。
- まず、第1回目の委員会での検討事項について、事務局に整理していただいたものについて簡単にご説明いただく。

2. 第1回 瀬谷区地域福祉保健計画策定委員会での検討事項について (資料1. 2. 3. 4)

事務局

- 資料1～4説明(省略)
 - ・全域計画と地区別計画の関係性(資料1)
 - ・瀬谷区の福祉・保健に関する状況について(資料2)
 - ・第2期瀬谷区地域福祉保健計画策定に向けた基礎調査(2009年)(資料3)

・まちの防災知恵袋と気づきのキャッチ・見守りのリレー事業の考え方(資料4)

委員長

- 1回目で出た疑問に丁寧に答えていただいたが、何か質問はあるか。

委員

- 説明では資料2の1. (2)で「高齢人口、年少人口の割合がやや高い」と書いてある後に、「瀬谷区の少子高齢化傾向は継続している」とあるのが、間違いではないが、表現の問題で、間違いやすく思う。

委員長

- 割合と絶対数と全市との比較等、丁寧に読めばわかるかと思うので、皆さんに正確に把握してもらいたい。
- 要介護認定のところで「割合は平均的」と書いてあるが、絶対数も説明の中に書いてあり、少し混乱しやすい。絶対数の話と割合の話を区別して書けば文章の意味がよく分かると思う。

委員

- 児童虐待の把握件数はどういった件数か。また、児童の年齢はどの範囲か。

事務局

- 西部児童相談所で、21年度に新規に児童虐待と判定されて認定された数。長い間、相談や支援されている数は入っていない。

委員長

- 児童の年齢は原則18歳までで、例外的に措置延長の場合は20歳までとなる。

委員

- 資料4の「まちの防災知恵袋」事業と「気づきのキャッチ・見守りのリレー」事業の比較について、知恵袋事業について質問と補足をしたい。
- “まちの防災知恵袋”の「ねらい」のところで、事業の発足時の検討の際、“災害時の助け合い”ということで間違いはないのだが、災害に備えて、予め仕組みを作っておく、実態を把握しておくために支えあいカードを出してもらい、どの方を誰が、誰と誰が支えるのか等、きめ細かな“支えあいの仕組みを作る”ということが大事な事。
- 主な担い手で、「自治会長が中心」で間違いはないのだが、個々の方に対する支援は、予めこの方に支援をお願いしますとカードに名前を明記された支援者と、災害時には支援の要請があれば支援するという、ボランティア委員も募集し、研修を積んでいる。
- “気づきのキャッチ”の担い手に「地域活動の担い手」とあるが、以前、区で提案いただいた「草むしりのお手伝い」「荷物の運搬」「木の剪定」などのサポートクラブ的な活動もある。

委員長

- 特にねらいについて、震災時の助け合いとはいっても、日常の取り組みを重視したいということ。そういうこともあるので、この両事業、地域に下りたときになかなかわからないということが起きるのだと感じた。

委員

- 出所の違いや発足時の差もあるが、“区別”という言葉を使うと、この2つの事業は全く別

のものと捉えなくてはいけないイメージだが、“災害時のための備え”であれば、見守りの組織をきちんとしておれば、併用して考えることもでき、その方がよりよいと思う。

- 「スタート時点での思いや、出所が違うかもしれないが、ふたつともたどっていくと地域住民の見守りにつながることを念頭に入れ、各地区でふたつの事業をうまく展開して欲しい」という言い方をすれば、地域としては取り組みやすいと思う。
- 以上のことを考えながら2つの提案を地域にあった料理の仕方をして、独自のものを作っていてもいいという解釈でよいか。

事務局

- その通りです。それぞれの事業を地域のやり方で、地域の見守り体制が充実する形で展開してもらいたい。

委員長

- 先程の委員が言う事がベストなまとめだと感じている。そのような理解で皆よろしいか。

委員

- まちの防災知恵袋の課題で、横浜市からお手紙が高齢者にはいくが、障害児の手帳を持っている人にはこなかった。リストには載りにくいですが、災害時の支援は地域での見守りでいっしょにやってもらえるのなら構わないと思った。

委員

- このふたつの取り組みは、日頃からの見守りの中で、実際は今、行政においても別々に動いている。知恵袋事業の説明会は今年も行われるが、これまでは別々に依頼されてきた。
- 今まで、地域の人は、別々の取り組みとして受け取っていたが、今後1年かけて、いかにしたら両方の取り組みがしやすいのかお示しいただかないと地域でもやりにくいので、この機会によろしく願いたい。

委員長

- 前回もこの話は出ているので、事務局で地域においていった時に混乱しないように今後、対応いただきたい。

3. 見守り・支えあいについて

委員長

- 本日のメインテーマ「見守り、支えあいについて」の話し合いに入りたい。
- 先ほど事務局の説明にもあったように、前期計画では、「見守り、支えあいの仕組み」と「連携の仕組みの構築」が大きな議論のテーマになる。
- 本日は「見守りと支えあい」のテーマで多面的に議論いただきたい。次回はネットワーク。
- 話し合いをするにあたり、事務局から第1期計画の振り返りなど、考える素材をいただきたいので、説明願いたい。

事務局

- 資料5～6説明(省略)
 - ・平成21年度までの振り返りおよび今後の方向性(見守り・支えあい)(資料6)
 - ・平成21年度までの振り返りおよび今後の方向性(見守り・支えあい)概要版(資料5)

- 平成18年度から20年度までは、資料1の《評価・推進システム》の「全域計画推進懇談会」で1期の振り返りの議論を行ってきたが、今回は事務局でまとめたものである。
- 9つの推進課題のうち、見守り・支えあいの部分を抜粋し、それぞれ具体的にどう進めてきたかを行動計画をジャンル別に書いてある。
- 今後の取り組みの方向性は、継続か拡充か廃止かを明記した。

委員長

- これから第2期計画に向けて、見守り支えあいについてどういう切り口で計画に取り組んでいくか、皆さんの意見を伺いたい。第2期計画にて、ここにはない部分で何か取り組むべきものなどあればお願いしたい。
- 皆さんは地域でそれぞれ活動されているので、その体験なども参考に出していただきたいが、本日は全域計画の話し合いなので、その地域の活動がどのように全域計画に盛り込めるかなどを考えていただきたい。

委員

- 「障害分野に関する理解を深めるために4地区で説明会、講座を実施」されているが、主任児童委員や地域の民生の方とお話をして有意義な活動を行わせていただいた。このような数字を出して説明していただくと解りやすいので、色々な地域でも行って欲しい。
- 横浜障害児を守る連絡協議会で、「障害児を育てていて思うこと、何が負担か」等を「小学校に入る前」「小学校期」「中・高等学校期」の親御さん、3世代に分けてアンケート調査した結果、共通して「障害のことを理解されていない」ということが1番の課題になっているので、もしできることなら、“障害理解”を瀬谷区として進めていただけるように計画に入れて欲しい。
- 障害のところで、今、子どもの見えにくい発達障害が学校でも問題になっている。それは、脳に問題があって、発達障害の早期発見、早期療育がうたわれているので“発達障害の子どもへの理解”を計画に入れて欲しい。その様な子が普通の子の中にいられるようなちよつとした工夫が伝わるようなものが欲しい。

委員

- 今、障害者の方々に対する理解を得る努力を言われましたが、資料6の障害者の項目の行動計画で「民生委員・児童委員等と連携して」とあるが、ここは、地区社会福祉協議会も協力したので「民生委員・児童委員と地区社協」、または、「地域の自治会等」ときちっと表記すべきだし、今後もそうしていただきたい。ごく一部の人が研修を積むだけでは駄目で、多くの人に理解を深めてもらうところから始まるべき。
- 説明会の実施や講座は素晴らしい取り組みで、今現在、4箇所だが、今後も1回限りでなく、地域の要望に合わせてやって欲しい。
- 区の社会福祉大会の事業だったか、実際に聴覚障害の方が皆さんの前にでて、訴えられたことがあった。それで災害時にお助けバンダナを使おうということになったが長くは続かなかった。私たちも努力するが、いいと思うものは忍耐強く続けて欲しい。
- 先日、小学校で運動会があったが、ハンディを持った子どもに対して学校での理解があり、子どもにあった対応をしてもらっていて、頑張っている姿をみて、地域の人が必要な拍手を送るなど素晴らしいことだと感じた。

委員

- 地域のサロンについて、やっけていても知らないとか、遠くて行けない場合もある。、グループで町内地域でサロンを立ち上げたい場合、助成金や補助金などはあるのか。

事務局

- 助成金、補助金に関しては、基本的に出している。非常に多岐にわたって行われる活動なので、主体がどこか、地区社協か、連合が支援しているなど、実施主体が明確であることが大事。瀬谷区はサロン活動が活発で、地域の中で複数個所展開されている。
- サロン活動は、人数や回数の実績で補助基準額分かれているが、申請していただければ、助成金を出す仕組みがある。

委員

- 助成金の話をする前に、その団体でゼロからの出発もできるので、やりたい人達で話し合っけて持ち上げていく方向で、ある程度の実績があれば助成金がもらえるので、皆さんのできることからやっけていけばよいと思う。

委員

- グループでサロンをやりたいのなら、せつかく地域福祉保健計画でもサロンが入っているので、地域に声をかけて地域とつながることが大切。自治会に依頼すれば回覧を回すとか、私はこれができる等地域で動くことができ、それが地域福祉だと思う。サロンは自治会館など、場所さえあればできるので、できたら、地域と連携して立ち上げて行くと、より立ち上げやすいと思う。

委員長

- サロンは高齢者に入っているが、瀬谷はサロンが盛んなので、サロンの中味も進化し、「高齢者以外の方も来ていい」という部分に私は注目している。
- また、地域サロンは「拡充」となっているので、単位自治会レベルで、なるべく近い自治会館で拡充が図られていくといいと思う。
- ゼロからの出発でもいいのでどんどん増やすべき。担い手は、区民、地域の方で、ステップアップする上で、後から、行政や社協が助成するという役割分担で、今後の瀬谷のサロンが発展していくと整理できる。
- 「こうなったらいいな」の部分と「役割分担」についても考えていただきたい。

委員

- 今の地域サロンのくくりは、高齢者だけでなく全般に入れた方がもっと幅が広がる。

委員長

- その通りだと思う。
- 私見を言わせてもらおうと、先ほどの調査で外国籍住民が緩やかに増加とあるので、外国籍の方や、障害の方が地域との連携を持つために障害の方も来ていただきたい。確か、地区懇談会でもそのような話は出ていた。地域サロンというのがひとつの核になって地域の仕組みが自然にできていくのが望ましい。

委員

- 月に何回はやらなくてはいけないとか、何人集まらなくてはいけないとか規定があるのなら、最初に聞いておきたい。

委員長

- できることをやって、その取り組みが助成の枠に入ったら助成金が出るという順番でやっていくのがよいと思う。

委員

- サロンについて実際に立ち上げた立場で言うと、自治会、町内会が中心になって始めるのと、グループで民生が中心になって立ち上げるやり方がある。
- 会場費が問題で、会場は自治会館を無料で借りるとか、お知らせも回覧板などを利用して自治会の協力を得ないとなかなか難しいし長続きしないと思う。
- 交流を図るという意味で、年齢に関わらないべきだと思う。
- 趣味で習い事をされていて、折り紙や、その日の余興としての活動の発表の場としても活かしている。ボランティアには、さらに練習を積もうなど、生涯学習の推進にグループ活動を発展させる意味でのいい効果が出ている。

委員

- 福祉保健計画ですから、保健について。18年度から、「水と緑の豊かな瀬谷区」で健康をとりあげて「水緑の健康ウォーク」として区が中心に3年間やってきた。それをサポートするサポーター会が去年から独立して、保健活動推進員と合同でウォークを中心に健康づくりを進めようと委員会組織として取り組みをしている。
- 毎月瀬谷区で100人を超える人が集まり、その方が地域に帰りウォーキングを楽しみ、また、家族で健康づくりを進めている。このような活動があることをご承知おきいただきたい。
- 瀬谷区で進めている介護予防プロジェクトの「元気塾」では、身体を動かすサロンを指導してもらっている。
- 本郷を中心に「元気クラブ」では、ゆっくりウォーキングを30分、それからゲーム体操などやり、サロンに集まった人が、それを機に、健康に目を向けられるような取り組みをしている地域サロンの例もある。

委員長

- 今、サロンのテーマに関する発言で健康ウォークを紹介いただいたが、見守り、支えあいの上でも、「あの人今日、来ていないね」など効果的だと感じた。
- また、注目すべき点は区レベルの取り組みが地区レベルの取り組みになるとは、非常に波及効果があると感じた。
- 見守り支えあいに健康ウォークがはいっていないのは…

事務局

- 見守り支えあいという、どの事業も支えあいに入ってしまうので、ストレートなものだけ今回まとめさせていただいている。ウォーキングの取り組みもひとつの支えあいの取り組みだというご意見をいただいたと認識する。

委員

- 三ツ境のサロンでも、現在は歩きはやっていないが、今年から年1回は歩くのを取り入れて、長屋門公園を一回りするとか和泉川を歩くなど検討している。

委員

- 今、経験談を聞いて、自分の地域でもできるかもと勇気づけられた。
- 私が計画を立てる時は、「いつ」「どこで」「誰が」「なんのために」「どんな風に」「いくらぐらいで」を常に考える事を心がけている。今回の全域計画では、メニューは全部揃っていて、これが全部できたらすごいと思うが、その中で欠けているのが「誰が」の部分少し心配。
- 意欲があって、認識のある方は始めているが、この計画を誰がするの？と言った時、この計画書を始めて目にした方は、「役所がやる」と勘違いするといけないので、計画書の中の誰がの部分に「私達が」の言葉が必要。私たち自身ができなくても、「私たちがより動かして、ある方が…」ここに集まっている方は動いている方なので、まだ動いていない方でも声をかけられたらやったださる人もいるだろうから、そんな方も取り込めるみんなでやろうという仕掛けを全域計画の中に盛り込みたい。「みんなでつくるみんなのしあわせなのだから」。
- サロンも区域レベルで連絡会はあるだろうけど、全域レベルで「うちのサロンではこんなことをやっています」という自慢会のような発表会があってもいいと思う。

委員

- 年1回やっている。

委員

- やっているならその成果をぜひ発表してもらえるとよい。やってどうだったとか、では、こちらでもやろう等、私たちの役割は「まだやっていない所などへの仕掛けをどうしようか」を心がけてやっていきたいと思っている。

事務局

- サロンに関しては連絡会を年に1回開催しているが、サロンの数が非常に増えて、連絡会も連絡事項だけで終わってしまうので、活動を紹介する場面などに展開していかなくてはいけないと思っている。今後、地域ケアプラザに協力いただき、地域ケアプラザの地域ごとの連絡会にしたいと思っている。

委員

- サロンはこれからも増えていくと思う。社協毎に取り組んでいるので、どの地域にもあると思う。
- 私の地域で老人会、友愛活動推進員で立ち上げたサロンもあり、そこは補助はもらわないでやっている地域もあるので、色々なサロンに見学にいった参考になれるといい。

委員

- 友愛は友愛で補助ももらっているので、それを使って集まる事はできる。地域的に遠いということがある。

委員

- 民生委員として色々な活動をしているが、資料6の障害者分野の行動計画で、「民生委員・児童委員等と連携して」とあるが、私の地域では、民生委員に限らず、地区社協の活動をしている人も入って講座を実施した。民生委員に限らず地域で活動している人も加えてそういう事業をやっていただくのがいいと思う。
- 説明会や講座の実施は地域力育成事業としてありがたいが、講座を受けた後、どう拡充していくか、障害者を理解した後、どういう関わりを持つかが課題。私たちの地域では、講

座を開いた後、地区社協として、障害者とどういう関わり合いを持つか、作業所等障害者の施設を見学して、どういう関わりが持てるか検討している。

- 活動している人に寄り添って、オープンに活動し、お互いに歩み寄るべき。ホームや作業所だけの問題にしないで、地域の人に入り込んでいただきたい。
- 見守りについては、私たちの地域では、災害時における要援護者の把握と、普段の見守り、両方とも民生委員でやっている。「気づきのキャッチ」と「要援護者の見守り」と、両方のつながりがわかっているのは民生委員。それをどのようにオープンにすることができるのかをもう少し検討したい。
- 情報を流さないで持っているが、民生委員だけで持っても仕方がないので、ある程度、地域の要援護者の情報は、各地区社協の見守り事業に入り込んでいくべきだと思う。情報公開の面で、もう少し緩やかにならないかとお願いしたい。

委員長

- サロンは高齢者だけでなく全般というカテゴリーに入れたい。
- 担い手を広げるという視点で言及された。「サロンに集まる地域の不特定多数の方の中から担い手側になってもらおう」ということを積極的に定義することにより、担い手が広がる効果があるのではないかということ。私は、港南区で常設のサロンに関わっているので担い手とその拡大という視点は重要だと思う。
- 地域ケアプラザごとの連絡会開催は、とても重要。ケアプラザはエリアが地区社協エリアと一致していないので、難しいと思うがケアプラザのコーディネーターの力を活かして行くことが1つの突破口になると思う。
- 歩み寄りの点は、全市の1期計画でも「自省力」という言葉で語られている。
- 最後の情報については、全市の第2期計画でもわざわざ分科会を作って委員長が指導して一定の方向性が出ているが、地域で頑張るといふ面と、役所側がある程度の仕組みを作るとか、知恵を出すなどの役割分担も必要だと思う。
- 民生委員が持っている情報を地域にどのように活かして行くという点について、なかなか難しい話だが、事務局として何かあるか。

委員

- 災害時のみ、民生委員の情報の開示が許されているが、普段の見守りでも必要ではないかということ。

委員

- 特に毎年7月頃に、要介護度3以上の方や障害者自立支援法に基づく認定者等の要援護者に区が手紙を出し、民生委員の訪問調査の同意があった方のリストを民生委員に提供されている。そのリストの中に障害者がたくさん含まれているが、普段の生活では見えない。

委員

- 災害時の見守りの事業を通して地域にそういう方がいるんだな、ということがわかり、普段ではわからない。

委員

- そういう方に普段でも、見守りとしての訪問をしたいが、民生委員は行けるが、地区社協

としての訪問は控えている。

委員

- 誰が、というところが大事。地域の中の見守りあい、誰かが見守るのではなくて、皆で見守り、小さい単位で見守り合いをするべき。地区社協に公開しなくても、狭い範囲なら地域で共有でき地域の見守りあいが可能になる。
- 地域でみんなが見守り合うことと、民生の持っている情報のつなげ方がひとつ課題としてある。
- 現実で言うと、誰が誰を見守るという組織図ではなく、地域の中でお互いが見守りあえる仕組みができれば一番いい。着地点をそこに置くと、福祉計画がそこで完成するのかもしれない。

委員

- 最終的には地域の5～6人の見守りが理想だが、そこにたどり着くには、今は民生委員が見守り事業をやっているので、宮沢地区の場合、今度は、地区社協の「気づきのキャッチ・見守り事業」として、安否確認を兼ねて安心袋を提供して訪問中。今は、地区社協の自治会毎に4～5人ずつ作って見守りをしており、最終的に、自治会の中の班単位に持っていくことを模索している。

委員長

- 今の議論は、見守りの単位を小さくすることにより、おのずと仕組みができるが、そこにたどり着くまでをどうするかということ。
- 地域福祉保健計画は、地区社協単位まで下りて計画を作っているが、実は、単位自治会や、もっと狭い所まで共助の精神が広がって行くのが醍醐味だと思っているので、そういう方向で実践、検討されることが必要だと思う。
- まだまだご意見があるかと思うが、次回のネットワークについての時でも話し合えるので、時間の関係で子どものこととお話したい。

委員

- 子育て支援の立場で4つお話ししたい。そのうち2点は質問。
- 1点目は、自治会の加入率が85.3%で市より若干高いとあるが、横浜市が急に下がってきている傾向にあるのなら、瀬谷も下がる可能性があると考え、どんな人が加入しないのだろうかと思うと、見守りや気づきのキャッチの事業で町内会に入っていない人の見守りはどうしているのだろうかという疑問。加入していない人は若い人が多いように思う。表札もでていなくて、どんな家族が住んでいるかもわからない。加入していない家庭への見守りを考えていかなくてはいけないのではないかな。
- 2点目は、子育て支援の場の中に発達障害のお子さんが無数にいることを皆さんに認識してもらいたい。民生委員・主任児童委員だけでなく、子どもの居場所のスタッフさんやケアプラザの職員さん等、それ以外の一般の住民の皆さんにも、普通に見えるけど、育てにくい子どもの存在を知ってもらいたい。今の若い人は、叱られることに慣れておらず、周りの人の非難の目が、若いお母さんには出ていけない要因になってしまう。普段、身近で、育てにくい子どもを育てているお母さんがいることを子育て拠点で活動している方達が理解して寄り添ってくれること、困っている人に対して声かけをすることが必要で子育て

がしやすくなると思う。

- 3点目は、子育てサポートシステムの会員の増加と書いてあるが、お手伝いを希望している人と手伝ってくれる人の割合がどのくらいなのか。それに対して、どのように増やしていく計画があるのか知りたい。自分も受けたかったが、三ツ境には支援者はいなくて、二ツ橋にいたと言われた。
- 4点目は、子ども虐待防止ネットワークのところ、「児童虐待防止連絡会」として講師を招いての講演等とあるが、この構成員としてどのような人が参加しているか知りたい。というのは、「ちょっと声が聞こえたら、早期発見で通報しなくてはいけない」と言われており、子育てをしている当事者(母)としては、窓をあけて叱っているのを虐待と言われると困る。児童虐待に関しても、通報しなさいというだけでなく、どんな家庭にも虐待は起こりえるとか、どうすれば虐待を防止できるか皆さんに知っていてもらいたい。

委員長

- いくつか質問事項もあったが、真ん中の二つめは、子どもや発達障害のことを担い手さんや皆に理解して欲しいということだった。

委員

- 今のお話はすべてが受け身であると思う。子育ては、いつの世も大変、昔は5~6人育てていて、環境の変化もあると思うが。自分が住んでいるところの周りに、自分から「こういう子がいるので、見ててください」とか、「夜泣きが大変なの」などお互いに日常的に理解できるような関係が大事。自分の方から心を開いて、目を向けてもらうような関係を築いて行く考え方でなくてはいけない。何かを利用しようとか、相談者が遠くにいて利用できない、などでは難しい世の中になってしまう。自分から、出かけてみようとか、こういう機関に子育てについて訪ねてみようと言うスタンスが大事。
- 地域に子どもが産まれた時、「おめでとう」と声をかけるだけでも関係ができるし、自分の時も大変だったから、何かお手伝いできるかしら、という関係が理想。
- 児童虐待などという言葉は昔はなかった。公になるにつれて、通報しなくてはいけないといことばだけが走り、児童虐待の痛ましい事件が多いが、命を大切にしようと、精神的な負担がかからないように見守りも大事。普段と違い異様だと思った場合は、地域の民生、役所につないでいってもらおうと思う。

委員

- 4つめの「子どもの虐待について」どのような機関が入るのかについて、自分も高齢者の虐待の方もどうなっているか知りたいと思った。

委員長

- 今の若い親は叱られることに慣れていないということが、今の地域つながりのない中で育てているので、近所の人に声をかけられるのに慣れていないということがある。
- 自治会に加入していない人の中に若い人が多いと私も思う。今の若い人は、地域の中で付き合いことに慣れていないという、大変困難な状態におかれていると思う。瀬谷区で90年代後半に子どもの遊びの調査をした時、非常に些細なことに、今の若い親御さんは、有頂天になったり悩んだりし、困難な層が多いという結果が出ている。一方で地域として理解して接してもらいたいと思う反面、「自分力」のように、「私はこうしたい」とか「こう思う」など、

地域の中で声を発する努力も必要だと感じた。

委員

- 地域の子育てをしているお母さんとご近所の関係について、私達の地区で、昔保健所で提唱された「生き生き瀬谷っ子広場」を開催しているが、開催の狙いは、地域のご年輩の方から若い方に参加していただくことで、地域の情熱と若いお母さんにも地域に慣れていただく機会にしている。かけがえのない子どもは、地域で見守り、叱り、教えたり、声をかけて意識を持つべくやっており、成果を上げている。
- 今、阿久和地区と瀬谷第二地区、瀬谷第四地区で行われているが、いいことを自主事業としてやっていくことは大事だと思うので地区でやるのはいいのだが、今後は広く他の地域でもやっていけるようになるといい。
- 居場所のところで、中学校の先生が、子どもは「地域との関わりを子どもがどう持つべきか」「地域の方のために自分も役に立ちたい」という意識を持っていると聞いている。瀬谷第二小の6年生の担任の先生からは、菊作りを通して「命の大切さ」を教えたい、「地域のお役に立ちたい」というので、子ども達が育てた菊をケアプラザに飾って皆さんに見ていただくとうと菊を展示した。また、今度「子どもにどう関わっていただきたいか」と学校で20分間話をさせていただく。
- 居場所も単に場所を作るのではなく、出番を作り、その方が皆の役に立ったと喜びを感じる視点で仕組みを作るといいと思う。

委員長

- 中学生・中学校への着眼で話をあげていただいたのが嬉しく思う。

委員

- 地区別計画で、地域の中では様々な課題があり、大きな課題は地域だけでなく、もっと他の力が必要という場合、それを支えていただける仕組みを全域計画に設けていってほしい。
- 実は、今、大きな課題を抱えていて、おそらく地域だけでは無理だと考えているので、その辺の仕組みを盛り込んでもらえるとありがたいし、地区別計画と全域計画がつながる。

委員長

- 地区ごとに解決できない大きな課題について、「地区別計画を支援する」という一般的な表現ではなく具体的しかけを考えるとということだと思う。

委員

- 発達障害についての意見について、支援者の方に理解してもらいたいと切に思う。自分の子育てを思い返してもとても感じる。順番が守れないなどしつけが悪いとしか思われず、つらい思いをした経験がある。

委員

- 私の言葉がきつかったかもしれませんが、障害者だからということもあるかもしれないが、すべての子どもを地域が育てていくという意識をもてれば、お母さんの負担も軽くなると思う。地域に出ていく勇気をもってサロンに出ていくとか、地域に出て行かないと見えない部分もあるので、自分達の声を出していただくのが先決かと思う。気持ちで人に言えない部分もあるが、長年子どもを育てて行く中でどこかで声を発しないとつながらない部分

がある。「社会でみんなで子どもを育てていきましょう」という雰囲気を感じていきたいと思う。

委員長

- その通りで、歩み寄りというか、かなり長期に渡る関係づくりだと思う。
- 今の私が接している学生達は社会的には恵まれているが、非常に大きな困難を抱えており、かつすごい緊張をしている。最近では「便所弁当」だとか「すぐ切れる」など、緊張に緊張を抱えているがために切れるという現象が起こる。なおさら障害を抱えていると親御さんの苦労も大変だろうと思う。最終的に地域で何らかの関係を作っていないと皆が幸福にはなれないとその点では委員の皆さんは意見が一致すると思う。

委員

- ボランティアについて、若い人にもう少し参加してもらいたいと思う。
- ボランティアに参加してもらう声かけとして、親を看取った方に落ち着いてから声をかけると引き受けてくれることが多い。

委員

- 学地連の会議でも出たが、若い時代からボランティアの大切さと、自分がしたことを他の人に喜んでもらえるという体験が大事だと、災害に備えた防災訓練に中学生に体験してもらう話がでた。中学生にケアプラザで赤ちゃんを抱いてもらったり、デイサービスの方の話し相手になってもらったり体験を積んでもらっている。

委員

- 健康ウォーキングの時に「菜々汁」といって塩分の控えた汁を提供した。瀬谷は色々な農産物があるので、それを紹介したりした。
- 子育て支援の方で、民生委員と一緒に3歳児未満のお母さんに、こういう食べ物はいかがですかとレシピの紹介等も行っているの、是非、そういう場に足を運んでいただき、食を通して馴染みができるかと思った。困難を抱えている方も参加してもらいたい。

委員

- 高齢者に関心がある。地域の中で障害や子どものことについて、一般的に知られていないと感じた。ネックになっているのは、私たちが知った情報をどうやって広げると本人達が知られたくないと思っていることが古くて新しい課題だと感じた。
- 地区の行動計画を立てていく上で、一番身近に接することでもあるので、また市の計画の中でも論じられたということなので、発表される機会もあるかもしれないが、担い手の方も理解し、当事者も理解できる、同意できることが大きなポイントになると気がついた。
- 全般、高齢者、障害者、子どもという分け方が、今の論議の中で妥当かどうかと思う。第1回の中で、「問題は地域の中だよ」と言っているの、子どもから大人へと育って行く上で地域の中でそれぞれがどう関わっていくかの視点の方が妥当ではと思う。私が勝手に思ったことなので、次回のネットワークの時に検討していただきたい。

委員

- 「主体はどこなのか」「みんなですみんなの仕組み」「仕掛けの仕組み」など、議論ができるといい。
- 最終的にサザエさんが住んでいる町になるといいなというイメージ。

委員長

- 「サザエさんのコミュニティー」という本がある。鳥越先生というコミュニティー論の先生がいる。
- 皆さん、まだ言い足りない所があるかと思うが、次回はネットワークというテーマに、場を移して議論を深めて行くことができると思う。
- 今日色々なご意見をいただいたので事務局で整理をし、未解決の質問などご回答いただきたい。
- 高齢者、障害者、子どもというわけ方は話し合いの色分けをすることで有効であったが、資料の出し方について、次回以降、事務局にも検討をお願いしたい。

事務局

- 次回以降の日程について、日程の候補を表にしたので、ご都合の悪い日に×を記入して提出をお願いします。

委員長

- これで終了とさせていただきます。

以 上